

私の主人は、質実剛健で若い時からとても酒豪家でした。

ところが、平成9年初夏頃に突然体調がおかしくなり、入院したが、医師からは9月頃にはもういのちがないものと宣告されました。

（残り数カ月のいのちで、アルコール性肝硬変から肝性脳症までになっていたとのこと）
やむなく、自宅療養で終末をと頑張っていました。11月に意識不明になり、専門病院に緊急入院しました。

この頃、パイヤ発酵食品と出会い、主人に、死ぬつもりで飲んでみたらとすすめたら、お酒以外は一切、健康食品など口に入れなかった人が素直に食べ始めました。

ここから、信じられない、奇跡のようなドラマが始まったのです。
経過を追ってお話します。

平成9年12月 某公立病院に入院。1日に5本のパイヤ発酵食品を医師に内緒で食べ続ける。

12/28 肝機能向上し体調も改善したので退院許可出る。



平成10年

平成11年

平成12年

←
パイヤ発酵食品を食べると、酒も飲めて、ゴルフもできて、いのちの期限を宣告されたなどと思えないような毎日を過ごしていました。

平成13年4月

←
肝臓に小さいガン見つかる。

先生、肝臓が硬くなっているので、最後の手当てをと言われたが、危険もあり、本人、このまままで結構と断る。

平成14年初夏

頃まで

←
相変わらず、ゴルフとお酒の日々を過ごす。

平成14年夏

東大の名医を受診するも、痛みや苦しみが無いことから危険な手術などしないで、このまま様子をと、本人も受け入れる。

相変わらず、パイヤ発酵食品とお酒、ゴルフと信じられない日々。

平成15年6月

←
少し、お腹がふくらみ始めて、40日ばかり入院。

(本人、痛いとか、苦しいとか言わない毎日を過ごした)

平成15年夏 退院して、自宅にて散歩などで過ごす。

平成15年10月 アンモニア脳症になり、終日よく眠るようになったが、痛みや苦しみを訴えることはなかった。

平成15年12月16日 最後の最後まで、家族に下の面倒などかけることなく、眠るように永眠した。

(享年67歳)

私は、主人が、アルコール性肝炎から肝硬変、肝ガンと、その病気の経過を一緒に歩いてきましたが、医者から、何度、死の宣告を言い渡されても、ご縁があったパイヤ発酵食品のお陰で、本当に奇跡としか言いようのない、素晴らしい人生を主人に与えてくれました。

特に、身内などの肝臓病の末期では、とても耐えがたい苦しみにさいなまれているので、主人も、最後は、このような死に目になるのかと心配していましたが、穏やかに、顔もきれいで、こんな幸せな人つてあるのかなあと今でも感謝の気持ちで一杯です。

このパイヤ発酵食品は、私の主人のように、医者の手当てもしのぐほどの、何か、自然界がもたらす癒しの力が備わっているのではと、信じております。そして、今も、主人が愛したパイヤ発酵食品を家族で愛用しています。